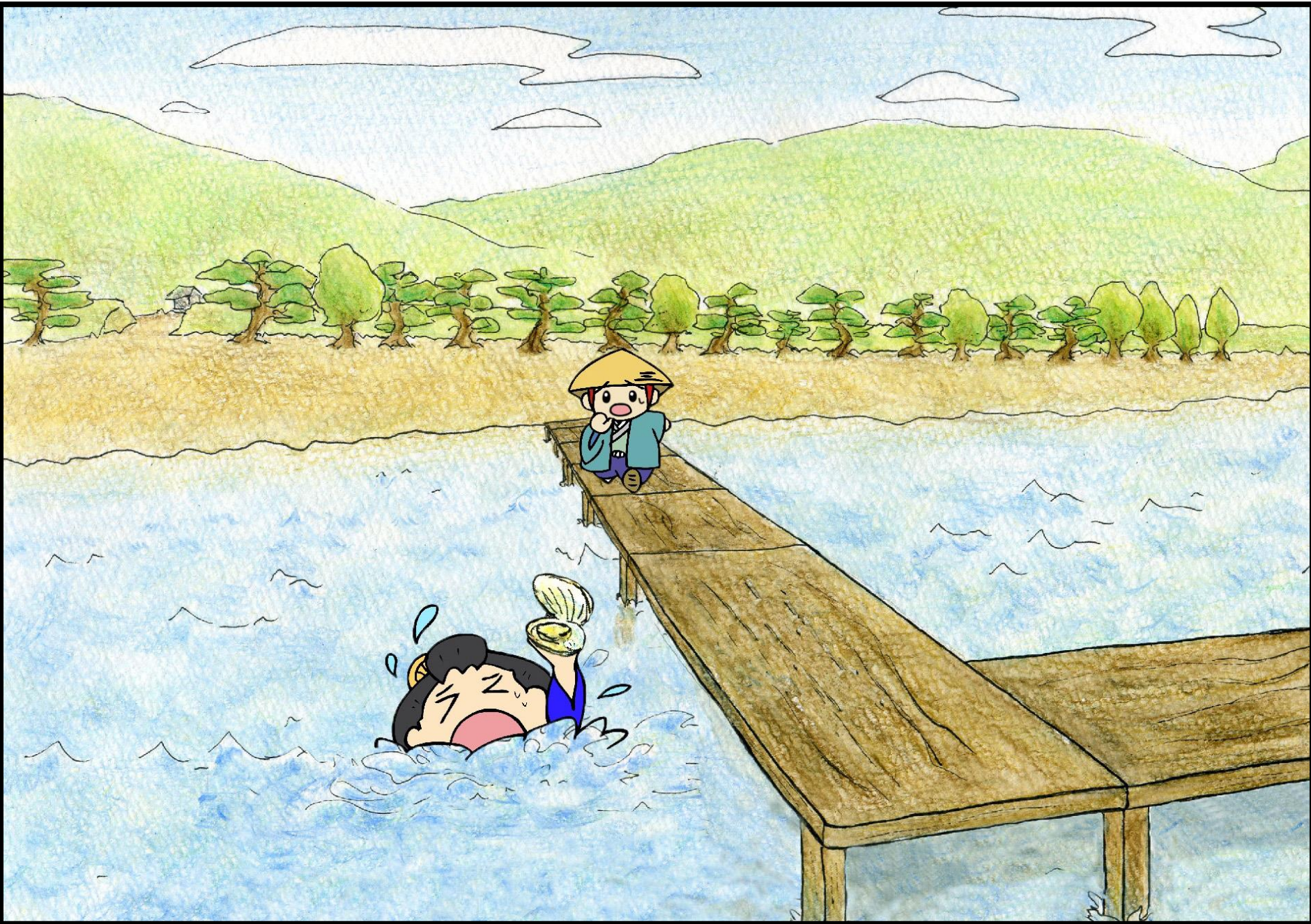


# 第3話 たび丸、恋やつれ











助けてー！



どこからか助けを呼ぶ声がある。  
あっ！琵琶湖で女の子が溺れている！



危ないところでした。  
助けていただきありがとうございます。  
私は五月と申します。  
真珠に見とれて溺れてしまいました。



五月～！



姉さん。



声が聞こえて慌あわてて来たけど、  
どうしたの大丈夫？



びわ湖で溺れていたところを  
この方に助けてもらったのです。



たび丸と申します。  
たまたま通りかかったもので。

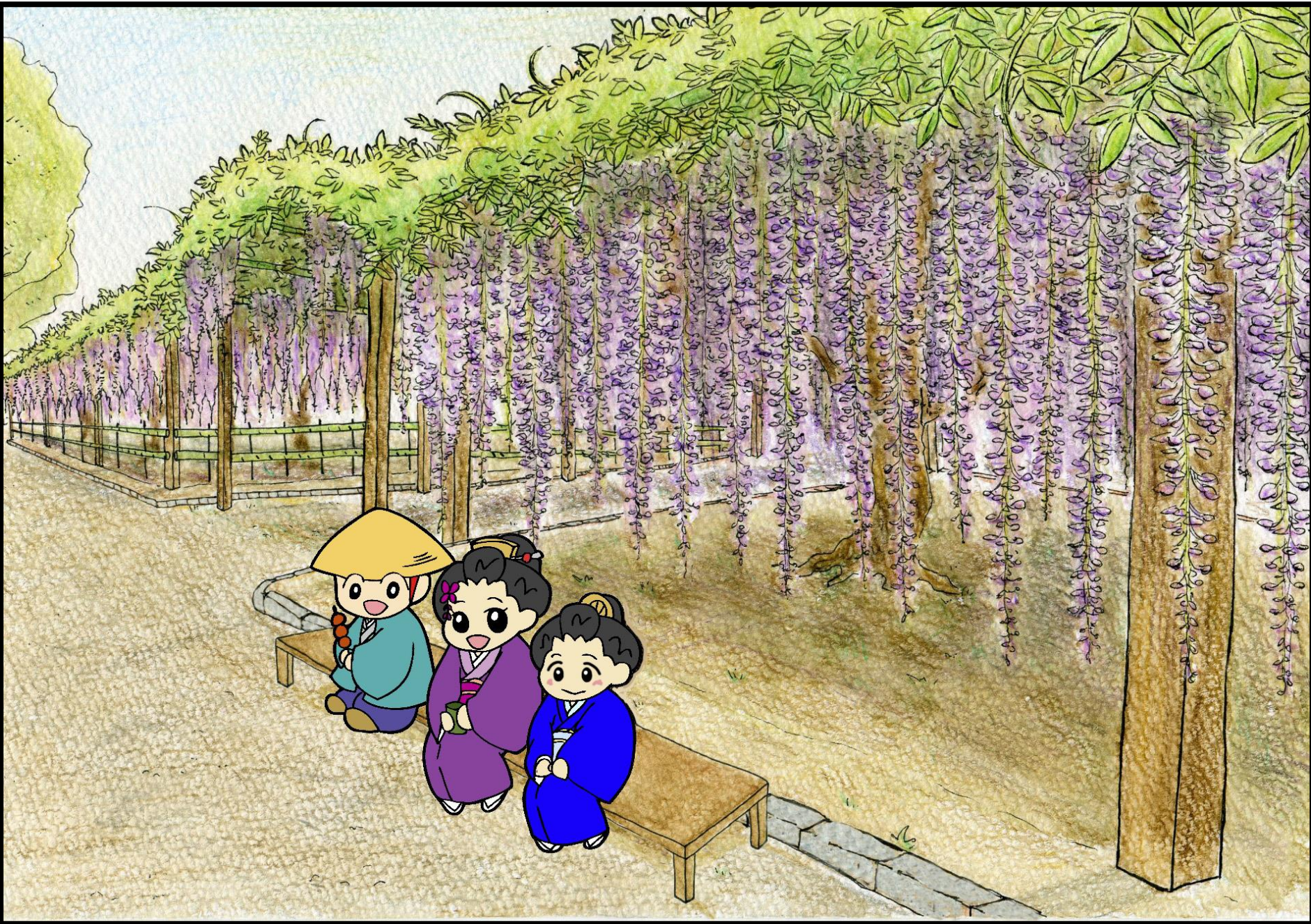


私は五月の姉の藤と申します。  
妹を助けていただきありがとうございました。



私どもは三大神社の近くに住んでいます。  
よろしければ何かお礼をさせてください。







—翌日—



ここにたび丸と申す者がおると  
聞いたのだが・・・

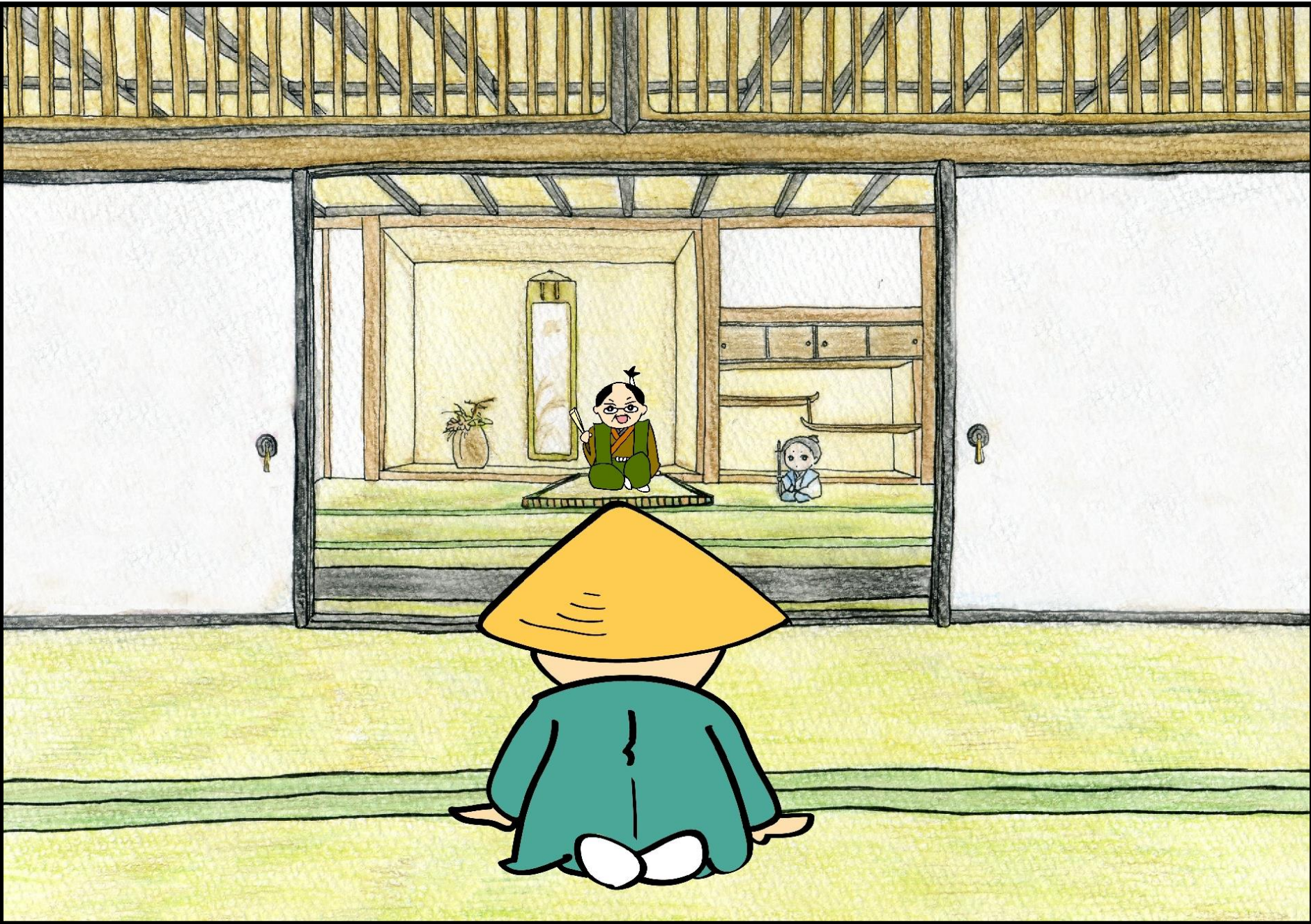


ぼ、ぼくがたび丸です。



殿がお呼びだ。  
城まで参られよ。





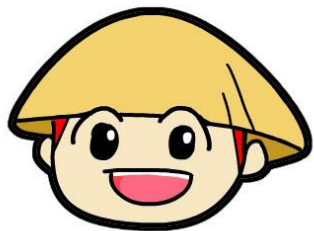




お主がたび丸か。  
昨日、東家の五月ちゃんが溺れているところを  
助けてくれたそうじゃな。

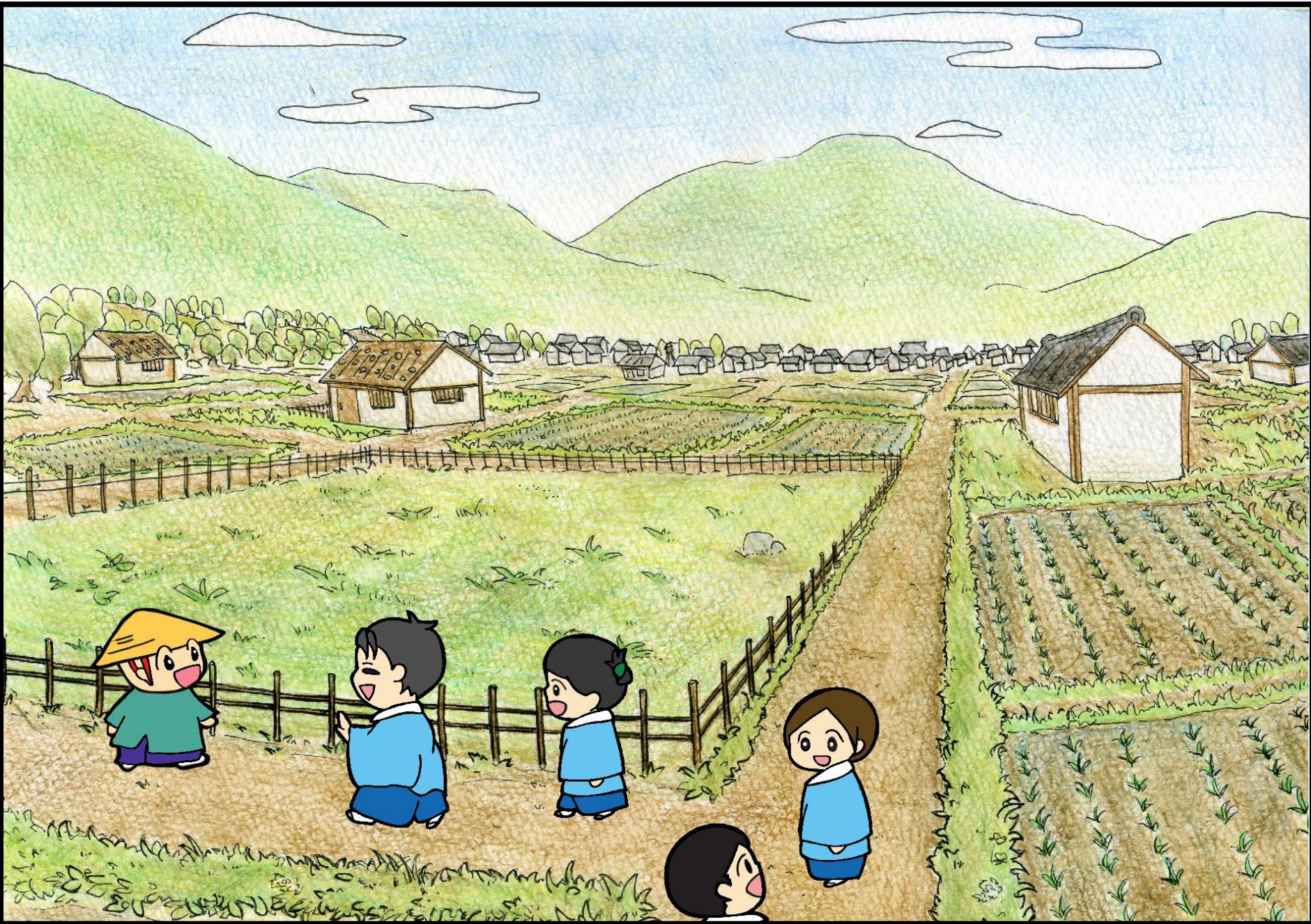


あっぱれじゃ！  
東家は代々我が城に奉公している  
家族同然の付き合いじゃ。  
わしからもお礼がしたいのじゃが、  
志那にあるわしの田をお主に授けたいと思う。



よろしいのですか？  
はは一謹んでお受けいたします。









やあ、たび丸君。  
この土地は君のかい？



ここで自分の家を建てようと考えているんだあ。



ここは市街化調整区域だね。  
家を建てるなら開発許可が必要だよ。



開発許可って？





草津市には市街化区域と市街化調整区域に分かれているのは知っているかい？



知ってるよ。  
ばんちゃんに教えてもらったんだ。  
(\*第1話参照)



市街化区域と市街化調整区域（第1話参照）にわけることを「線引き」って言うんだけど、線を引いて、それぞれにルールを設定することで、まちづくりを計画的に行うんだ。  
このルールを守ってもらうために、開発許可制度があるんだよ。



## ■開発許可制度とは？

【市街化区域】



【市街化調整区域】



ズバッと線引き！  
それぞれにルール（基準）を設けて計画的にまちづくりを図る。

ルールが守られているか審査（＝開発許可）

市街化調整区域では何もすることができないのかな？  
このあたりでも新しそうな家があるようだけど・・・

市街化調整区域でも、ルールを守って  
許可を受ければ新たな開発もできるんだよ。



## ■市街化調整区域の立地基準

誰もが何でも建てることができるのであれば、市街化が進んでしまうので、それを防ぐために建てることができるものを限定して、市街化が進まないようにするのもなんだよ。

例えば・・・



調整区域で生活している人たちの衣食住に必要な店舗や診療所など市街化を促進しないようなもの



マンションなど市街化を促進するもの

市街化調整区域では、自分の家を建てるためでも開発の許可が必要なんだよ。

手続きには、いろんな図面や書類が必要になるので、専門業者（コンサルタント）に依頼してやってもらうことが多いんだ。

調整区域では田園などを損なわないように規制がされているんだね。立地基準にあえば僕の家だって建てられるかもしれないんだね。





うーん。  
時間と費用がかかりそうだなあ。



(でもここならお藤さんの家も近いし、  
ここに住めたら毎日遊びに行けるな)



そんじゃ、僕はそろそろ役所へ帰るね。  
また何かこまっちゃったら相談に来てね。





たび丸さーん。こんにちは。  
実は、お城への奉公が決まって  
これからお城へ行くところなんです。



ええーそーなのー



(ガーン。  
お藤さんが奉公へ行っちゃったら、  
毎日会えなくなるじゃないか。)



お藤と別れたあと、  
肩を落としながら帰るたび丸であった。



# くさつ博士のホントの歴史

志那の浜は対岸に比叡山や坂本を望み、大津・京都への至近の距離にあったため、古くから対岸へ渡る重要な港でした。永禄11年(1568)には、天下統一を目指す織田信長は、室町幕府最後の将軍足利義昭よしあき ようを擁して志那から湖上を渡り三井寺に入っています。

当時、この志那の港は、京都と安土、美濃を結ぶ東山道の守山とは志那街道によって結ばれていました。また、志那は俳諧はいかいの祖そとして有名な山崎宗鑑そうかんの生誕しんぜんいぬつくばしゅうの地でもあります。室町時代には将軍足利義尚よしひさに仕え、『新選犬筑波集』の作者としても有名です。

そして、志那の湖辺は蓮の名所として知られ、慶長8年(1603)には徳川家康も蓮を見に立ち寄り、ほかにも京都から貴紳きしんが浦辺うらべに小舟を浮かべ観蓮に興じていた記録が見えています。

時代は下って、大正年間から淡水真珠の養殖の取り組みが進められていましたが、昭和10年(1935)の新聞記事に「淡水の琵琶湖で真珠が取れる！」と常盤村志那の内湖「平湖」で行われていた淡水真珠の成功が報じられました。その後、第2次世界大戦など幾多の困難を抱えながら真珠養殖は草津を中心に周辺に広がって行きましたが、琵琶湖の水質変化や輸入真珠など、時代の趨勢すうせいとともに淡水真珠の養殖も衰退すいたいの途をたどっていましたが、しかし、近年になってふたたび淡水真珠復活への取り組みが進められています。

